

宇宙通信アドバイザーボード（第 10 回）議事要旨

日 時：令和 8 年 7 月 13 日（月）15：00～17：00

場 所：オンライン

出席者：梅比良座長、甘木構成員、石田構成員、加保構成員、小塚構成員

議題

- （１） 宇宙戦略基金の執行状況について
- （２） 宇宙通信分野を取り巻く状況及び研究開発課題等について

議事要旨

梅比良座長により、議題に沿って議事を進行。

議題（１）について、JAXA より説明が行われ、その後、各構成員による議論が行われた。議論の概要は次のとおり。

- JAXA が進める海外宇宙機関との Co-funded 事業推進枠組みについて、具体的なイメージや取組状況が確認され、同枠組みに対する期待感が示された。
- 事業化を見据えた課題が多いことを踏まえ、プログラムオフィサー（以下、「PO」という）の人選について質問があった。JAXA から、宇宙戦略基金の内容が技術開発テーマであるため、技術専門家中心となるが、審査委員や PO 補佐には事業化の観点を持つ人材を選任している旨、説明があった。

議題（２）について、宇宙通信アドバイザーボード事務局より説明が行われ、その後、各構成員による議論が行われた。議論の概要は次のとおり。

【今後の技術開発の方向性①衛星光通信技術について】

- 光通信端末と光地上局の開発は、実際に誰がどのように使うシステムなのかという観点が重要である。用途によって設計が大きく異なるため、全体設計の議論が必要であるとの意見があった。
- 光通信端末を衛星に搭載する場合、開発して終わりではなく衛星にインテグレーションすることが必要であるとの意見があった。
- テーマを絞り、伸ばすものを確実に伸ばすことが重要であり、技術開発の先にある事業化・ユーザー育成が共通の課題であるとの意見があった。

- 海外勢の商用化先行を踏まえ、構想の市場適合性とビジネスを見据えた「勝ち筋」を明確にすべきであるとの意見があった。

【今後の技術開発の方向性②衛星 IoT 技術について】

- 衛星・端末開発者だけでなく、ユーザーも含めた実証を要件化することが必要である。また、共同で技術開発や実証実験を行えるように支援を工夫すべきであるとの意見があった。
- 日本企業は宇宙への関心が薄く、端末を開発するだけでなく、ユーザーの視座を引き上げることが急務との意見があった。
- 複数分野と連携しながらユーザーニーズを掘り起こすことが必要であり、国内だけでなく、海外ユーザーの育成を図ることも非常に有効であるとの意見があった。
- 地方では、例えば、熊の出没や犯罪の増加により住民の安全・安心な暮らしが脅かされている。複数の課題を踏まえたユースケースに対する実証の検討が必要であるとの意見があった。

以上